

草の根技術協力（支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	インドネシア共和国
2. 案件名	ジョグジャカルタにおける農業従業者の生活向上のための牛繁殖効率の改善
3. 事業の背景と必要性	<p>インドネシア共和国ジョグジャカルタ特別州では、約 50% (15.4 万頭)の牛が山間地域のグヌンキドゥル県で飼育されている。同県の人口約 75 万人のうち 36%に相当する約 27 万人（約 9 万世帯）は肉用牛を飼育する農家であり、世帯当たり 1～2 頭の牛を飼育している。事業形態は畜産専業ではなく畑作等の植物栽培農業との兼業で、農業外収入は無く世帯収入が低いため貧困状態にあり、改善が必要である。</p> <p>なお同県はインドネシアの最貧困地域の 1 つであり、ジョグジャカルタ特別州の 5 つの県・市の中でワースト 2 位の貧困率 17.1% (約 12.7 万人)である(最悪の貧困率は牛飼育が少ない県の約 20%)。</p> <p>本県の牛の繁殖は、グヌンキドゥル県政府の農業・食料事務所の人工授精師 34 名と獣医師 23 名、技術補助者 23 名による人工授精によって実施されており、飼育牛の発情徴候不明瞭(鈍性発情)などの問題を抱えながら、繁殖率向上への取り組みがこれらの獣医療関係者によって行われている。しかし発情を見つけて人工授精が成功する率は明らかに低く、雌牛は 2 年に 1 頭程度しか子牛を産まず、子牛販売は安定収入源になっていない。このことが、グヌンキドゥル県の小規模農家が貧困である大きな理由である。特に、子供の進学など出費がかさむ重要なライフイベントが起こった時には、売却できる牛が少ないために進学を諦める選択を迫られることにもなっている。このように牛の繁殖効率が低いことは、本県において貧困が世代を超えて連鎖する構造の主要な要因の 1 つとなっており早急な改善を必要としている。</p>
4. プロジェクト目標	飼育牛の繁殖効率（受胎及び出産の状況）が改善する。
5. 対象地域	インドネシア共和国ジョグジャカルタ特別州グヌンキドゥル県
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	<p>直接受益者：グヌンキドゥル県政府農業・食料事務所所属の人工授精師 34 人および獣医師 23 人</p> <p>間接受益者：グヌンキドゥル県で繁殖用雌牛（肉用牛）を飼育する農家約 27 万人</p>
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 小規模畜産農家で飼育される繁殖牛個体情報のデータ管理が改善する 人工授精の受胎率改善に向けた検討が定期的実施される 村落畜産共同体が組織され、定時人工授精法がパイロット導入される 獣医師および人工授精師の授精技術、畜産知識が向上する <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. グヌンキドゥル地域の獣医師と人工授精師が iSHIKHNAS への個体情報登録を行う 1-2. iSHIKHNAS 入力情報の月別集計と解析を行う。 2-1. iSHIKHNAS 入力情報の解析などに基づく問題意識の共有と問題解決のための検

	<p>討(月例セミナーでの討議)を行う。</p> <p>2-2.月例セミナーでの事例紹介(山口大学、ガジヤマダ大学が交互に話題提供)を行う。</p> <p>3-1. 村落畜産共同体を組織する</p> <p>3-2. 村落畜産共同体ごとに定時人工授精適格牛5頭の選定と定時人工授精を実施する。</p> <p>3-3. 定時人工授精牛の妊娠状況の確認と出生数の確認を行う。</p> <p>4-1. 人工授精技術専門家のグヌンキドゥル地域への派遣と実演、意見交換を実施する。</p> <p>4-2. グヌンキドゥル地域で活動し選抜された人工授精師/獣医師が現代的畜産技術の視察と体験をする(山口大学への招聘)</p>
8. 実施期間	2022年7月～2025年7月(計36か月)
9. 事業費概算額	10,585千円
10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	<p>カウンターパート機関: ガジヤマダ大学獣医学部</p> <p>関係機関: グヌンキドゥル県政府農業・食料事務所</p>
II. 団体の概要	
1. 実施団体/指定団体	山口大学共同獣医学部
2. 主な活動内容	<p>人と動物との関係を科学的に追求し、動物と人類の福祉、食資源とその安全性の確保、高度獣医療ならびに生命科学研究に貢献できる獣医師と獣医学研究者の養成を目的として教育・研究を展開している。また、海外大学等と協働した獣医学教育・研究をとおして、獣医事に関わる世界的な課題の解決に取り組んでいる。</p>